



聞こえなくても
熱い応援がわたしのチカラ。

知事 2025年のデフリンピック、耳が聞こえない・聞こえにくいアスリートのための国際総合スポーツ大会において、デフバドミントンの代表選手として団体戦で史上初となる金メダルを獲得した片山結愛選手。まずは金メダルおめでとうございます。

片山 ありがとうございます。今回のデフリンピックは、初の日本開催、さらに100周年ということで、皆さんに注目していただきました。東京オリンピックと同じ京王アリーナTOKYOのコートに立てたこと。そして、大勢の観客に囲まれてプレーすることができたことは、一生の思い出になりました。選考会の時から、試合会場やパブリックビューイングなど、さまざまな形で応援してくだ

しさを克服していく楽しさがあります。例えば音で判断できないので、ショットの高さを変えて、前衛がシャトルを見て次の動きをする時間が作れるよう工夫します。最初は自分の得意なドリブンクリア*を生かせないと悩みましたが、それよりも確かなラリーで1点を取ること、仲間と連携することが大切なのです。そのために、高校時代まで使った手話も学びました。

知事 では話題を変えて、香川県の好きな食べ物や場所を教えてください。

片山 やっぱ好きな食べ物うどん。特に釜玉うどんが好きですね。車の免許を取ったので、西は父母ヶ浜や「天空の鳥居」で知られる高屋神社、東は

リフレッシュするつもりで

香川に帰ってきてください。



さったことが力となり頑張ることができました。子どもたちもボードや国旗を振って懸命に応援してくれました。「応援の力つてすごい」と感じさせてくれたデフリンピックでした。

知事 そのデフリンピックの舞台に導いた、片山さんのバドミントン人生について教えてください。

片山 バドミントンを始めたのは小学3年生の時でした。2歳下の弟と友人と一緒に地元綾川町のスポーツ少年団に参加したのがきっかけです。元々スポーツが好きなおもりましたが、人工内耳と補聴器を着用しているのが、それに当たっても危なくないというのが、大きな理由でした。できなかったことがどんどんできるようになるのが楽しくて、大学まで続けて12年になります。バドミントンは対人競技で相手との駆け引きが面白く、相手の思い通りにはさせず、自分のやりたいプレーを貫く醍醐味があります。1日に何試合も行いう競技なので、いかに体力を温存して勝ち上がるかが重要です。体力づくり

KATAYAMA YUME × IKEDA TOYOHIRO
知事対談 片山 結愛 × 池田 豊人

やさしい風景と 温かい人に包まれる香川県。



綾川町出身。生まれつきの難聴で、右耳に人工内耳、左耳に補聴器を着けて生活している。小学校3年生からバドミントン、高校3年生の時に本格的にデフバドミントンを始めた。初出場となった「2022日本ろう者ランキングサーキット大会」で女子シングルス優勝、女子ダブルス準優勝を果たし、東京2025デフリンピックのバドミントン混合団体戦では金メダルを獲得。

※自陣コートから相手コートのエンドライン付近に向けて、低い弾道で相手コートの奥を狙うショット。

屋島にと、香川県のあちこちを訪ねています。何より私は田んぼの中で育ったので、帰ってくると田んぼやため池

の風景に癒やされます。穏やかな香川の風景を見ると気持ちが落ち着きます。それに人が温かい。高松の商店街では、待ち合わせをしても知っている人によく出会うのですが、皆さん温かく声を掛けてくれます。そういうぬくもりをいつも感じています。

知事 偶然に知り合いに会うというのは、コンパクトな香川県ならではの魅力ですね。では、最後に次の目標を教えてください。

片山 今回のデフリンピックでは多くの注目をいただきました。これを2029年のアテネ大会まで継続したいと願っています。そのために、私たち選手自身がイベントや講演会などの活動を通じて、もっとデフリンピックの認知度を上げていかなければと思います。個人的な目標としては、アテネ大会で団体戦と共に個人戦でも金メダルを取ることです。また、

のために、2023年の世界選手権出場からウェイトトレーニングを取り入れるようになりました。最初は筋力をつけることを意識していましたが、今は体の使い方、可動域を広げることを意識しています。腹圧を鍛えて体の軸をしっかりさせ、確実に止まって素早く動き、ミスの少ないプレーを目指しています。

知事 デフバドミントンならではの難しさや楽しさもあると思いますが。

片山 私は3歳の時に右耳に電極を埋め込み電気信号を送る手術をしています。左耳は補聴器を装着し、高校生まではその状態でプレーをしていました。しかし、デフバドミントンでは、全員が補聴器や人工内耳を外してプレーしなければなりません。私の場合は、飛行機のエンジン音や電車の音も聞こえない状態になります。最初はバランスも取りにくく、ダブルスでは声を掛け合えないのでラケットがぶつかってしまふこともありましたが、けれど、今までは違う難

片山 結愛

東京2025デフリンピック
バドミントン混合団体
金メダリスト



池田 豊人

香川県知事

自分と同じように耳が聞こえない子どもたちやそのご家族、生きづらさを抱えている人々に自分の活動を見てもらって、何かのきっかけになればという思いがあります。両親をはじめ、たくさんの人に支えもらった恩返しをしたいと考えています。今年から社会人になります。感謝の気持ちを忘れず、自分らしくバドミントンに向き合っ結果を残したいと思っています。

知事 期待していますよ。練習が大変だとは思いますがリフレッシュするつもりで、時々香川県に帰ってきてください。